

# カトリック六甲教会 教会報

2009

5

No.449

## イエスの復活こそ、新生

マシア 神父

私の書斎は南側の庭に面しているが、一本の桜の木が窓の真ん前に立っている。十二月、秋が終りに近づくとつれて葉が落ち、枯れた枝は冬を知らせる。冬至のころに、落ちていない葉は六枚しか残らなかった。無理してでも生き残りたかったみたいだが、やがて裸の木は年の暮れを迎えた。お正月の曙にぱらぱらと降りかかった初雪をかぶる桜を見てみると、春の前ぶれをほのめかすつぼみがあった。「雪・月・華」と、一言で言える日本では、月に照らされるつぼみこそ、死を超克する復活の姿のように思えてならない。

イエスが今なお生きておられることを証して集うキリスト者にとって、「復活」はこの世の生命に生き返えることではなく、もはや死ぬことのない永遠のいのちの次元に入り、いのちの源なる神のうちに常に生きることを意味する。

仏教者は花祭りでブッダの誕生を四月上旬に祝うが、地中海の国々では復活徹夜際のことを「花の過ぎ越し」(スペイン語で Pascua florida パスクア・フロリダ)と呼ばれる。仏教では一人ひとりの中に仏性があるというが、キリスト者たちは一人ひとりの中に、人を生かす聖霊の息吹があると信じている。

「復活」はギリシャ語で「アナスタシス」というが、「新たに立ち上がり」、「眠りから覚める」、「昇天する」と訳される。葉っぱが落ち、枝が枯れかけて死んだかのような桜の木には、いのちがあり、死ねない何ものがあつた。だから、春になると、その死から生けるつぼみが生まれ出て、いのちが蘇る。

復活の「復」という字よりも、「新・活」や「真・活」と書くほうがよい。復活する者がこの世での制約から解放された身となって真のいのちに新たに生きるのである。「イエスは復活した」と言うよりも、「イエスこそ復活であり、真のいのちなのであり」(ヨハネ 11, 25) キリストとながっている者は、すでに復活している(ヨハネ 11, 26)と私たちは信仰告白する。





# 信徒の教会づくり

今月より、私たちの「信徒の教会づくり」を考えていくために、いろいろな方に様々な考えを述べて頂くコーナーを設けました。ご自分の思うところを投稿頂き、みなさまの意見の交換の場になれば、と願っています。 (広報部)

六甲教会宣教60周年、おめでとうございます。

1987年3月25日、今から22年前、私は六甲教会の方々にとってもお世話になりました。危なっかしげに6年間の有期誓願期を終えた私が、安田大司教様の前で終生誓願を宣立することができた奇跡の場所です。その時は古い聖堂でした。

主任司祭のオマリー神父様、助任司祭の佐々木神父様、前主任司祭のドカン！の武庫神父様はじめ、大阪教区の神父様方、神学生だった松浦 謙神父様、神田 裕神父さま、パリミッション会クレニュー神父様と沢山の神父様たちから祝福をいただきました。ミサは教会学校の子どもたちや中高生が侍者をしてくれ、教会学校のリーダーたちや青年の方たちが聖書朗読やカメラマンを引き受けてくださいました。オルガンもソリストも六甲教会の信徒の方に協力していただき、祝賀パーティーは婦人会の方々が心をこめて準備してくださり、私の誓願宣立を支えてくださいました。私の修道生活において忘れがたい教会です。

しばらく六甲を離れていましたが、再び神戸に派遣され、1998年から7年と数か月の間、教会受付事務や教会学校、中高生会、そして青年会に関わる使徒職をいただきました。また、末期の癌に侵され、イエス様に救いを求めて教会を訪ねてこられた方の最後までを共に歩かせていただくという本当に貴重な体験をさせていただきました。オマリー神父様、桜井神父様にこの紙面をお借りして感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

他の面では、教会の庭で子どもたちと遊んでいて、怪我や骨折と不便さには事欠きませんでした。

「また、シスターは!」「今度は骨折!」「次は何?」などと言われながら、いろいろなことを体験することもできました。そして何よりも、多くの子どもたち、リーダーたち、青年たちとの良い出会いに恵まれ、自分を飾ることなく、「わたし」として楽しく生きることができました。第二の青春時代であったように思います。ありのままの自分としてものごとに向き合えた体験でした。感謝の気持ちでいっぱいです。

今、私は広島の小さな教会でささやかながら子どもたち、中高生の信仰教育に携わらせていただいています。活動内容はとても小さなものです。キャンプ地を借りるほどの経済的な余裕がありませんし、子どもたちの数もいません。それで小教区を超えて動きます。子どもたちは大学の校舎を借りて夏季合同合宿。高学年、中高生は他の教会を使って練成会をします。自分たちの教会だけではできないので、地区内の小教区が力を合わせて青少年の信仰を育む協働のあり方を学ぶ機会をいただいています。

各教会で様々な活動が行われていますが、その中心は誰なのかを問われることが少なくありません。私たちの“主”はイエス・キリストであることを忘れがちです。自分が、自分がと、私が“主”になってしまいがちです。一人々が“主”であるイエス・キリストのみ業を敬い、讃美し、神さまのみ旨を現わす道具となり、教会を建てていくことができますように。

無原罪の聖母に守られている六甲教会が、これからの歴史に神への忠実さの証を刻んでいかれますようにお祈りいたします。

(援助修道会 道子)



## 小教区評議会 議長に就任して

小教区評議会議長 川合

このたび高山吉彦前議長の後をうけ、小教区評議会議長を務めさせていただくこととなりました。松村主任司祭のご指導を得て、副議長の詫洋一様、志水登美子様、書記役の柁木久和様、牛尾啓子様、信徒会、専門部会の役員の方々と力を合わせて、私たちの共同体である六甲教会評議会の円滑な運営を行っていく所存でございます。信徒の皆様への温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

信徒が中心になって奉仕する「信徒の教会」、ひとり一人が大切にされる「温かい教会」、互いに信仰を深め合う教会を目指し、私たち六甲教会の老若男女が融和し手を携えながら、素晴らしい教会作りに励んでまいりたいと存じますので、皆様方からの様々な幅広いご意見もよろしくお願い申し上げます。



### 大切な「お知らせとお願い」

桜井神父 より

松村新主任司祭は胃ガンが発見された後も自覚症状はなく、通常通りお元気です。4月12日復活祭に山口教会での送別会も終わり、その後は東京のイエズス会SJハウスに滞在し、胃腸専門の病院に通院しておられます。同病院の検査結果では、① 皮膚の内部へ入っていく浸透性ガンの種類であり、慎重な対応が必要なこと、また② 合併症が起きた場合には迅速な対応が出来るように(医師・看護師が揃っている)連休明けに手術を行う方針であり、具体的に4月21日入院し、5月12日(火)を手術日とすることが決定しました。その結果、六甲教会への赴任は手術後の療養・回復を待ち、5月末頃になりました。予定より1ヶ月程遅れますが、万全の体調をもって着任されるよう、皆様のお祈りをお願い致します。

なおイエズス会管区長との話合いにより、松村神父着任までの間、助任・片柳神父を主任司祭代行に任命し、司祭団の安芸神父、マシア神父、コリンズ神父の協力を願うこととしました。特に週末毎に司祭館に滞在して下さるコリンズ神父を相談役とし、重要な事柄について同師の判断を仰ぐこととしました。

松村神父は病院側から連休中は外泊と休養のすすめがありますので、5月3日(日)昼～6日(水)午前まで六甲教会に滞在し、役員・評議員の方々、都合の良い方々などとお会い出来ることを希望しておられます。

最後に、私(桜井)自身は転任先の教会事情のため、4月下旬に旅立ちましたことお許し下さい。深くお詫び致します。今回の人事異動に伴う例外的な出来事すべてに対し、皆様の寛大なご理解を感謝するとともに、すべては神の計らいの中にあり、「神は万事が益となるように共に働いて下さる」(ローマ8章)と信じております。六甲教会という信仰共同体がさらに成長するように、神様の豊かな恵みと祝福を祈っております。



## 洗足式（聖木曜日）

4月9日聖木曜日（主の晩餐）のミサで行われた洗足式に被洗足者の一員として参加できたことを大変光栄に思う。赤松神父が『ヨハネによる福音書』13章を朗読された後12人の「使徒」の足を洗われた。「神父に私の足を洗っていただくなんて!」、私も聖ペテロと同じように恐縮したが、「もし私があなたを洗わないなら、あなたは私と何のかかわりもないことになる」とのことなので、私も主の限りなき愛をお受けした。私には大変難しいことですが「あなたがたも互いに足を洗いあわなければならない」という教えを実践しなければならないことを肝に銘じた。世界平和を祈る私自身が、恥ずかしながら身近な人たちに敵意を抱くことがしばしばある。このように弱い私ではありますが、「主の平和」に向かって精進したいと思っていますので、兄弟の皆さんどうぞ宜しくお願いします。

日本語で「足を洗う」という意味は、裸足で修行に歩いた僧が寺に帰り泥足を洗うことで、俗界の煩惱を洗い清めて仏行に入ったことから、「悪事や悪行を止めて正業につく」つまり堅気になる、ということである。この場合、足を洗う主体はあくまで自分である。一方、最後の晩餐における洗足の主体はイエス・キリストである。このことは、ともすれば悪事や悪行に手を染めがちな私を主が愛でもって導いてくださる、ということを表しているのではなかろうか。（柁木）



赤松神父による洗足式



フォード・マトラックス・ブラウン作  
《ペテロの足を洗うイエス》1852-56年

## 洗礼を授かって（聖土曜日 復活徹夜祭）

受洗させていただいた復活徹夜祭は、桜と月が美しい夜でした。中学生の頃、母と従兄が使っていた聖書が私に回ってきたり、小学校からの親しい友人が高校時代に受洗したり、諸々の事情でキリスト教関連の書籍に出会ったりするうちに、とうとう遅ればせながら昨年4月に片柳神父さまの入門講座にたどりつきました。講座では皆様の優しいお心遣いに出会いました。きっと前方から引っぱっていただき、後方から押しさせていただいて、ここまでたどりつけたのでしょうか。

洗礼式では、ほとんどボンヤリしていて、神父さまに聖水をかけていただいた時にハッとして、しっかり！と自分に言い聞かせていました。帰宅して家族がみな自室に引き揚げてからも何故か眠るのが惜しいような気がして…。長年の間、私の扉を叩いてくださっていたのはあなただったのですか、頑なな私が全開できますようにもっと強く叩き続けてください、と祈っていました。どうか皆様のお仲間になれますように。（マリア・グラチア田中）

ちょうど今頃だったと思います。初めて六甲教会の朝のミサに参加するようになったのは。今日は行って見ようと思い、JR 住吉から電車に乗り、教会までの所要時間が分からないこともあり、1回目はすでに7時のミサは始まっていて、内心「ホッ」として帰り、2回目は「行って見ないと始まらない」と自分に言い聞かせて、少し早い電車に乗り出かけました。入口で桜井神父様に「初めてなのですが」と言って入ったのは、日々、生活していく中で「頼りない自分を何とかしなくては」との思いからでした。それからの約一年間、温かくそっと見守って下さった代母の内山様をはじめ、教会の沢山の方々、片柳神父様の「入門講座」で神父様をはじめ一緒に学んだ方々、ほんとに温かい空気の中で支えられ、受洗の日を迎えることが出来、感謝すると共に思い出されます。この日を出発として、力強い信仰が持てるべく進んで行きたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。(テクラ 瀧)

カトリックとの出会いは、24年前の春に夙川のカトリック教会で結婚式を挙げたことに始まります。次の出会いは、長男が六甲学院に入学したことです。このことが、後に六甲学院の赤松先生と飯塚先生(代父)、妻の友人の山田さん(代母)との出会いに結びついていきます。救いを神様に求めることを本当に知ったのは、妻の勧めで昨年の秋より赤松先生に週に一度、今思えば非常に贅沢な勉強会をしていたいただいた時からです。

聖書を読み、信仰の真理と歴史に触れ、次第に心の安らぎを覚えるようになりました。これからは神様がいつも私達を見守って下さいます。何も迷い心配することがないと思うだけで、本当に心強くありがたい気持ちになります。この度は、六甲教会の皆様方を始め、多くの方に祝福をいただいて、本当に有難うございました。洗礼式を執り行って下さった総ての方々に感謝し、御礼を申し上げます。

(ペトロ 青井・無原罪のマリア いくこ)



聖土曜日(復活徹夜祭)には14名が洗礼を受けました。

## 助任司祭室から

片柳(助任司祭)

先日、ミサの「お知らせ」でも紹介していただきましたが、4月から信徒会館2階の旧第5会議室が助任司祭室になりました。みなさんに開かれた交流の場として活用していければと思いますので、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

「開かれた助任司祭室」を実現するため、部屋の壁を常設ギャラリーにしようと思っています。展示の第一弾として、現在「ミニ写真展・桜色の季節」を開催中です。京都の醍醐寺や天竜寺で撮影した枝垂れ桜の写真を30枚ほど展示しています。連休明けまではこの展示を続けていますので、まだご覧になっていない方はぜひご覧ください。連休明けからは「ミニ写真展・新緑の中で」を開催します。六甲山で撮影した新緑の木々の写真を展示する予定ですので、どうぞお楽しみに。



## 各部だより

### 婦人会

5月 1日(金) 初金ミサ 10:00  
5月 30日(土) マリア祭 ロザリオの祈り  
ミサ 10:00  
6月 5日(金) 婦人会遠足  
申し込み〆切 5月 10日

### 壮年会

4月から2年間、下記のメンバーが役員を務めます。ご支援、ご協力よろしくお願ひ致します。  
★ 会 長: 征木  
★ 副会長: 塚崎  
亀田  
飛石  
大橋 (会計担当)

### 青年会

5月 10日(日) 12:30 定例会  
(助任司祭室)  
5月 24日(日) 13:30 定例会  
内容: 分かち合い  
(助任司祭室)

### 養成部

5月 23日(土) 10:30~12:00 命の講座  
講師: マシア神父(第1, 2会議室)  
5月 29日(金) 10:00~15:00 祈りの道場  
指導者: 英 隆一朗神父(六甲教会)  
参加費: 600円(昼食費)

### 社会活動部

次回連絡会 7月 3日(金) 10:00 ミサ後



## <お知らせ>

### 【典 礼 部 よ り】

#### ● 「神戸東ブロック合同堅信式」について

堅信式ミサ: 5月 31日(日) 11:15~ 神戸中央教会  
堅信を受ける方々のためにお祈り下さい。

また、六甲教会の受堅者がいらっしゃいますので、堅信式ミサにもご参加下さい。

#### ● 「典礼奉仕者の集い」について

- ・ 6月 21日(日) 13:30~15:30 (第1, 2会議室)
- ・ 6月 28日(日) 13:30~15:30 (第1, 2会議室)

指導: コリンズ 神父様 両日とも同じ内容です。

典礼奉仕者(案内係、お花係り、海星病院含む)の方は、いずれかにご出席下さい。

### 【社会活動部より】

5/1(金) 初金ミサ後、社会活動部連絡会

5/6(水) 10:00 手芸の集い(第1・2会議室)

どなたでも参加ご自由です。

5/9(土) 5月の炊き出しはお休みです。

5/21(木) 14:00 ベタニアの集い(イグナチオホール)

5/24(日) 9時ミサ後 手作りコーナー(イグナチオホール)

お弁当・手作り作品等の販売



### 「ブックフェア」開催

- 日 時: 6月 21日(日)  
9時ミサ後
- 場 所: イグナチオホール
- 販売品: パウロ書店の本、  
カード、

## 高学年錬成会

昨年度に引き続き、3月26日（木）から一泊二日で「高学年錬成会」を行いました。今回のテーマは「つどい」とし、教会巡りをしました。「復活祭を祝うために、ヨーロッパでは教会を7カ所回り、祈る」という話を本で知り、試みました。

児童14名参加。2グループに分ける。スターキッズ（チーム名）は、六甲教会、夙川教会、仁川教会、宝塚教会、池田教会、豊中教会、園田教会を巡る。オレンジチームは、六甲教会、夙川教会、武庫之荘教会、園田教会、尼崎教会、甲子園教会、芦屋教会を巡る。教会巡りをした児童達の感想を以下に記します。

### ■ スターキッズの感想

こんなにたくさんの教会を回ったのは初めてでした。それぞれ特ちょうがあつて面白かったです。また、それぞれの教会でかんげいされました。ありがとうございました。今後の活動に生かしていきたいです

### ■ オレンジチームの感想

訪問した教会のほとんどが貝がらの入れ物に聖水が入っていた。どの教会も特ちょうがあつて、教会の人みんながやさしくしてくれたからいろいろわかりました。ありがとうございました。

教会で大事にしたいもの、イエス様・マリア様・お祈り・十字架・祭壇・聖水・十字架の道行き・神様・聖堂。詳しくは、イグナチオホールに子ども達が教会巡りをまとめた写真付きの模造紙が貼ってありますので是非ご覧になってください。さらに、各教会を巡った上で、子ども達が六甲教会に希望する事をまとめました。

### ■ 六甲教会への提言

- ・遊具を作ってほしい・ステンドグラスがほしい・バリアフリーの広いエレベーターがほしい。
- ・聖水の入れ物を貝がらにしてほしい。
- ・人数を多くしてほしい。（子ども・大人だれでも）
- ・聖堂に「最後の晩餐」の絵がほしい。

教会巡りのためにスターキッズは7キロ、オレンジチームは9キロ歩きました。道中色々楽しいこともあり、子どもたちは元気に帰教できました。夕食はカレーライスでした。夜は六甲学院の生徒研修所にて少し暴れ（！？）、援助修道会の施設（小百合児童館跡）にて22時に就寝しました。

翌日朝から生徒研修所にて活動し、それぞれのグループで教会巡りのことと、六甲教会への提言を模造紙にまとめました。昼食はお花見（二部咲き）をしながら、みんなで楽しくお弁当を食べました。午後は午前中の作業を完成し、グループ発表を行いました。とても良い発表でした。

今回、教会をたくさん回り、子どもたちはそれぞれの教会の特徴をつかみ、良さを感じていたように思います。訪問したどの教会からも大歓迎を受け、本当にあたたかな皆さんの心、心地よい教会の部分に触れ、心がやわらかくなりました。

教会同士の交流、教会の在り方というものを考えることによって、今の教会をよりよい教会にしていく原動力になるのではないかと思います。（卯野・吉村 リーダー）



仁川教会

宝塚教会



豊中教会



～・～・～・～・各部紹介・～・～・～

専門部会の各部会の紹介をしています。各部ではみなさんの参加・協力をお待ちしています。

### 三日月会

コーディネーター 堀川

三日月会は今から約25年前に開始されました。諸先輩のご努力で現在に至っております。会員は満70歳以上の方で構成されています。三日月会という名称は、第三月曜日に開催されることから名付けられたのではないかと勝手に想像しています。

平成17年の国勢調査によりますと、70歳以上の方が人口全体の約14.9%になるそうです。この調査からすでに4年が経過しておりますので、現在ではさらに増加しているかも知れません。

六甲教会ではどうなっているか調べてみました。現在、私の手元にある名簿によりますと、三日月会員は442名で、当教会の信徒総数のうち維持献金をしておられる信徒数の18.7%と、人口調査に比べて高齢者の割合が高くなっています。若い人々に対する宣教が不足しているのでしょうか。

442名のうち、毎月（7月と8月の暑い月を除く10ヶ月）の第三月曜日に例会に参加される方は、約40名前後です。会員の9%ほどになります。少し淋しいですね。今まであまりPRしていなかったからでしょうか。

さて活動の内容ですが、午後2時から担当司祭（現在は安芸神父様）によるミサがあります。その後、神父様のお話があります。ここ数回はマシア神父様によります「イエスと共に」（同師著）をテキストとして、「朝の祈り」「昼の祈り」「夜の祈り」「イエスとともに過ごす夜、寝る前の一時」のお話をお聞きしています。私達が毎日家庭で行う祈りの仕方など、とても参考になる良いお話と感じております。その後、お茶（コーヒー、紅茶又は日本茶）とケーキや果物をいただきながら、ある時はビデオの鑑賞、ある時はグレゴリオ聖歌の練習など、その時々専門家(?)をお招きして、とても有意義で楽しい一時を過ごしています。4月はバチカン大聖堂で行われた、ヨハネ・パウロ2世の司式とヘルベルト・フォン・カラヤン指揮（モーツァルト戴冠式ミサ曲）による荘厳ミサのビデオを堪能しました。全部で約一時間ですので、4月は前半を行い、5月は後半の予定をしております。どうぞまだご参加されていない方もご遠慮なくお出かけください。その次には「聖パウロ・タルソスからの世界へー」のビデオ鑑賞を予定しております。これは「使徒言行録」と「パウロの手紙」をもとに、パウロと出会い、精神的豊かさを見出し、パウロの生涯と思想を探る旅を描いたものです。どうぞお楽しみください。会費は一回あたりお1人300円です。

まだまだ若い者には負けられません。元気で、六甲教会をリードしていくつもりで頑張りましょう！！

### カトリック神戸地区大会

テーマ：篠山で会おう ～きずなの恵み～

- 日 時：2009年6月7日（日）13:00～16:30
- 会 場：たんば田園交響ホール（篠山市）
- 内 容：ミサと小教区の交流



※ 現地には教会からバス2台に分乗して行きます。  
詳細は聖堂前の申し込み用紙をご覧の上、お申し込み下さい。



「美しい人に」

渡辺 和子 著 (PHP 研究所)

少し前のことになりますが、同窓会報の記事に、「こんな時代であるからこそ美しい人になって下さい」との先生の言葉がありました。そして美しい人になるための条件として

1. いつもにっこり笑うこと
2. 自分のみにくさを恥じないこと
3. 人の身になって思うこと

とあり、この本からの引用であると紹介されていたので手に取りました。

30年以上前に書かれたものなのに、全く古いと感じなかったし、今は80歳を越えていらっしゃるシスターが40代の頃の書かれた文章らしいのですが、もっとお年を召された方が書かれたもののように感じるのは、シスターの人生の重みと深さなのだと思います。大変頭の良い方な上に、相当勉強もなさっているのでしょうし、神様の用意なされた試練(お恵み?)も並大抵のことではなかったご様子です。

志のために自らを律して努力することが当然のことであるとの確信をお持ちなのは、恐らくあの時代の軍人の家庭にお育ちになったからではないかと思います。自分との戦いに意志の力と信仰という武器を持って戦う勇ましさ。祈りに支えられた絶え間ない努力。自分の自己満足に陥らず、子供に必要なものを見極めて与える指導者としての決意。正直に語られる自分の弱さや思いが示す潔さと本物の勇氣。そして、2・26事件で父親が殺害される現場の様子まで、どの文章もとても厳しい内容なのに、力強いけれど一貫して穏やかな語り口は、シスターが神様の愛に包まれているからに違いないと思います。

あまりに遠い道のりにくじけそうになりますが、シスターの文章に心を動かされ、背筋を伸ばされ、美しい人になるために頑張らなくてはいけません。  
(本郷)



## < 5月の予定 >

	教会暦	教会行事
1	金	初金 7:00 10:00 ミサ
2	土	聖アタナシオ司教教会博士
3	日	復活節第4主日 世界召命祈願の日 17:00 海星病院ミサ
10	日	復活節第5主日 10:15 小教区評議会 14:00 結婚準備セミナー開始(31日まで) 17:00 海星病院集会祭儀
14	木	聖マチア使徒
17	日	復活節第6主日 世界広報の日 7:00 10:00 ミサ 11:15 小教区評議会年次報告会 17:00 海星病院集会祭儀
18	月	14:00 三日月会ミサと例会
21	木	14:00 ベタニアの集い
23	土	10:30 命の講座
24	日	主の昇天(祭日) 10:15 堅信準備勉強会・黙想会 17:00 海星病院ミサ
25	月	11:00 ベビーとママの集い
26	火	聖フィリポ・ネリ司祭
29	金	10:00 祈りの道場 (15:00 ミサ)
30	土	マリア祭 7:00 10:00 ミサとロザリオの祈り
31	日	聖霊降臨の主日(祭日) 11:15 東ブロック合同堅信式(神戸中央教会) 17:00 海星病院ミサ

### 広報部員のつづやき

先日まで桜が咲き誇っていた教会の庭も、今は新緑に覆われ、つつじが咲き乱れる季節となった。散りゆく桜とともに、9年間六甲教会のために尽くされた桜井神父様も東京のイグナチオ教会に移られ、今は松村新主任司祭が着任されるのを待つばかり。先月、信徒会・専門部会の役員もほとんど入れ替わり、今月から本格的なスタートとなるが、当教会も高齢化が進む中、信徒会・専門部会にも新しい信徒、若い信徒の参加が益々必要となってきている。ともすると、神父依存型の当教会も、いよいよ信徒自らがやらなければならない事柄が増えてくるであろう。

新しく出来た「宣教部」を中心に、将来の教会のあり方についてみんなで考え、みんなで布教できる共同体づくりが我々に課せられた課題ではないだろうか。

(T.H)



教会報6月号の発行は、5月31日(日)です。  
編集会議は5月24日(日)です。  
記事原稿は、5月17日(日)正午までに信徒会館  
受付へご提出願います。 (広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

**カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会**

〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21  
電 話 078-851-2846  
F A X 078-851-9023  
発行責任者 松村信也 神父  
編 集 広 報 部